

建設業景況調査

2019年度 第4回

(2020年 1月～ 3月 実績)
(2020年 4月～ 6月 見通し)

2020年4月

北海道建設業信用保証株式会社
東日本建設業保証株式会社
西日本建設業保証株式会社

目 次

I. 建設業景況調査について	
1. 調査要領	1
2. B.S.I.およびグラフの見方について	2
3. 今回調査の実施要領	3
II. 調査結果	
1. 概観	4
2. 主要項目別の動向	
(1) 地元建設業界の景気	5
(2) 受注	6
(3) 資金繰り	8
(4) 金融	10
(5) 資材	12
(6) 労務	13
(7) 収益	14
(8) 経営上の問題点	15
III. 付属統計資料	16
IV. 調査票	21

I. 建設業景況調査について

1. 調査要領

(1) 調査の目的

全国の建設企業の経営動向の調査を行い、建設業のおかれている状況を総合的に迅速かつ的確に把握することを目的としています。

(2) 調査の時期

毎年3、6、9、12月

(3) 調査項目

① 経営動向

地元建設業界の景気、受注、資金繰り、金融、資材、労務及び収益の状況

② 経営上の問題点

(4) 調査対象

保証事業会社と取引関係にある建設企業のなかから、地区別、業種別、規模別の分布状況を考慮して、建設業の経営動向を反映するに足りると認められる企業を対象としています。

なお、調査対象企業は原則として固定しています。

(5) 集計方法

企業回答を単純集計

(6) 調査方法

郵送によるアンケート調査

2. B.S.I.およびグラフの見方について

《B.S.I.とは》

景気の先行きをみる上で、企業経営者の意識調査を行うことがあります。この建設業景況調査は、景気等に関して個々の建設業者の意識調査を行ったものです。そして、この意識調査の結果を数値化して表したものが、B.S.I. (ビジネス・サーベイ・インデックス=景況判断指数)です。

本報告書では、棒と折れ線の混在グラフで調査結果を表示しています(グラフ1)。

《B.S.I.の求め方》

集計結果から、以下の方法によりB.S.I.が求められます。

【回答企業構成比】 (景況調査集計)			(B.S.I.集計)		
良	い	10%	良	い	25%
やや良		15%			
変	ら	45%	変	ら	45%
やや悪		20%			
悪	い	10%	悪	い	30%
合	計	100%	合	計	100%

$$\begin{aligned} \text{B.S.I.} &= (\text{「良い」と回答した企業割合} - \text{「悪い」と回答した企業割合}) \times 1/2 \\ &= (25 - 30) \times 1/2 \\ &= \underline{\Delta 2.5} \end{aligned}$$

《B.S.I.の見方》

B.S.I.は「良い」「悪い」などの変化方向別回答数の構成比から全体の趨勢を判断するものです。すべての企業が「良い」とみている場合、B.S.I.は50、逆は $\Delta 50$ 、すべてが「変らず」の場合は0となります。

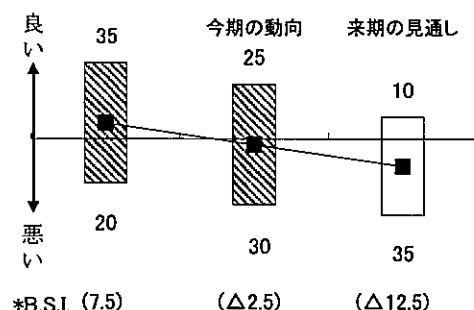
(グラフ1)では、B.S.I.が7.5から $\Delta 2.5$ になっています。これは、前期より景気が良い(景気は上昇局面にある)と判断している企業が多い状態から、前期より景気が悪い(景気は下降局面にある)と判断している企業が多い状態に変わっていることを示しています。この上昇から下降への変わり目(0が基準)を景気の山といい、逆の場合を景気の谷といいます。

(グラフ2)は、その景気の山・谷とB.S.I.の動きの対応関係を示したものです。

《季節調整済のB.S.I.について》

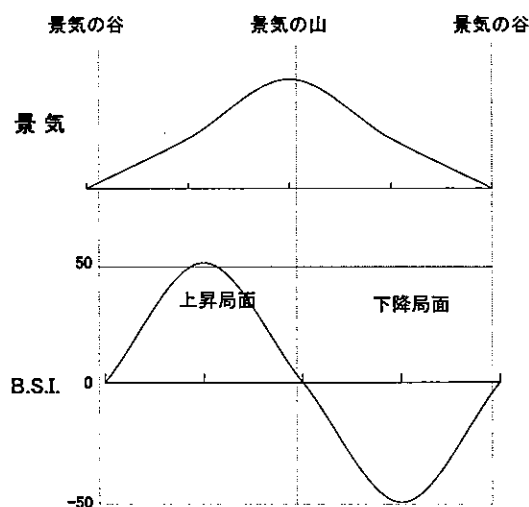
「季節調整済」とは、季節調整法により、毎年繰り返される季節的な変動を取り除いていることを示します。例えば、百貨店の売上げは、社会的慣習である中元や歳暮のシーズンには前期比で大幅に伸びますが、この伸びは景気回復によるものなのか、あるいは、単に中元・歳暮という季節的な変動によるものなのか、よくわかりません。そこで、景気動向の趨勢をみるためには、この季節的な変動を取り除く必要があります。このため、本調査では、このような季節的な変動をもった調査項目は、季節調整を行って表示しています。

(グラフ1)



- 1.棒グラフは、回答企業の構成比(%)を示す。
- 2.折れ線グラフは、B.S.I.を示す。
- 3.*印を付しているB.S.I.は季節調整済であることを示す。

(グラフ2)



3. 今回調査の実施要領

調査時期 2020年3月
 調査対象期間 2020年 1～ 3月 実績
 2020年 4～ 6月 見通し
 調査対象企業 2,573 社
 有効回答企業 2,320 社(有効回答率90.2%)

回答企業の内訳

業種 地区	業種				計	地区の内訳	
	土 工 事 業	木 建 工 事 業	築 工 事 業	土木建築 工 事 業			設 備 工 事 業
北海道		123	28	70	32	253 (10.9)	北海道
東北		109	65	94	58	326 (14.1)	青森、岩手、宮城、秋田、山形 福島
関東		139	91	129	102	461 (19.9)	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉 東京、神奈川、山梨、長野
北陸		83	30	83	41	237 (10.2)	新潟、富山、石川、福井
東海		96	36	61	41	234 (10.1)	静岡、愛知、岐阜、三重
近畿		63	39	57	27	186 (8.0)	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良 和歌山
中国		92	30	37	31	190 (8.2)	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国		66	28	22	24	140 (6.0)	徳島、香川、愛媛、高知
九州		116	57	72	48	293 (12.6)	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分 宮崎、鹿児島、沖縄
計		887 (38.2)	404 (17.4)	625 (26.9)	404 (17.4)	2,320 (100.0)	

* ()内の数値は構成比率(%)

- 注) ① 土木工事業 : 土木工事が完成工事高の8割以上を占めるもの
 ② 建築工事業 : 建築工事が完成工事高の8割以上を占めるもの
 ③ 土木建築工事業 : 土木工事及び建築工事の合計が完成工事高の8割以上を占めるもので、①、②以外のもの
 ④ 設備工事業 : 設備工事(電気工事・管工事)が完成工事高の8割以上を占めるもの

II. 調査結果

1. 概観

- 地元建設業界の景気(B.S.I.値)は、前期比で5.0ポイントマイナス幅が拡大し、「悪い」傾向が強まっている。
 - ・ 地区別で見ると、すべての地区で「悪い」傾向となっており、北陸が▲11.5と最もマイナスが大きくなっている。
- 受注総額(B.S.I.値)は、前期比で1.0ポイントマイナス幅が拡大し、「減少」傾向が続いている。
 - ・ 地区別で見ると、すべての地区で「減少」傾向となっており、北陸が▲12.5と最もマイナスが大きくなっている。

【今期：前期（2019年10～12月）に比べた今期（2020年1～3月）の状況】

【来期：今期（2020年1～3月）に比べた来期（2020年4～6月）の状況】

項 目		2019/6	2019/9	2019/12	2020/3	前期比	2020/6	今期比
		B.S.I.値	B.S.I.値	(前期) B.S.I.値	(今期) B.S.I.値		(来期) B.S.I.値	
(1)業況等	地元建設業界の景気	▲ 2.0	▲ 3.5	▲ 3.5	▲ 8.5	▲ 5.0	▲ 14.0	▲ 5.5
(2)受注	受注総額	▲ 6.0	▲ 5.5	▲ 7.0	▲ 8.0	▲ 1.0	▲ 16.0	▲ 8.0
	官公庁工事	▲ 7.5	▲ 7.5	▲ 7.5	▲ 7.5	0.0	▲ 15.0	▲ 7.5
	民間工事	▲ 6.5	▲ 7.5	▲ 9.0	▲ 10.5	▲ 1.5	▲ 14.5	▲ 4.0
(3)資金繰り	資金繰り	2.0	2.0	1.5	1.0	▲ 0.5	▲ 3.5	▲ 4.5
(4)金融	銀行等貸出傾向	8.0	7.0	7.5	6.5	▲ 1.0	4.0	▲ 2.5
	短期借入金	▲ 1.0	▲ 1.5	▲ 1.5	▲ 1.5	0.0	▲ 0.5	1.0
	短期借入金利	▲ 1.0	▲ 1.5	▲ 1.5	▲ 1.5	0.0	▲ 0.5	1.0
(5)資材	資材の調達	▲ 5.5	▲ 5.0	▲ 3.0	▲ 6.5	▲ 3.5	▲ 12.5	▲ 6.0
	資材価格	19.0	15.5	15.0	14.0	▲ 1.0	17.5	3.5
(6)労務	建設労働者の確保	▲ 27.5	▲ 26.0	▲ 25.0	▲ 24.5	0.5	▲ 26.5	▲ 2.0
	建設労働者の賃金	21.5	18.5	17.5	16.5	▲ 1.0	18.5	2.0
(7)収益		▲ 8.0	▲ 8.0	▲ 8.5	▲ 9.5	▲ 1.0	▲ 15.0	▲ 5.5

注) B.S.I.値のプラスは、良い、増加、容易、上昇の傾向を示す。

B.S.I.値のマイナスは、悪い、減少、困難、下降等の傾向を示す。

B.S.I.値は、季節調整により前回公表時と異なる場合がある。

[詳細は、次頁以降「主要項目別の動向」をご覧ください。]

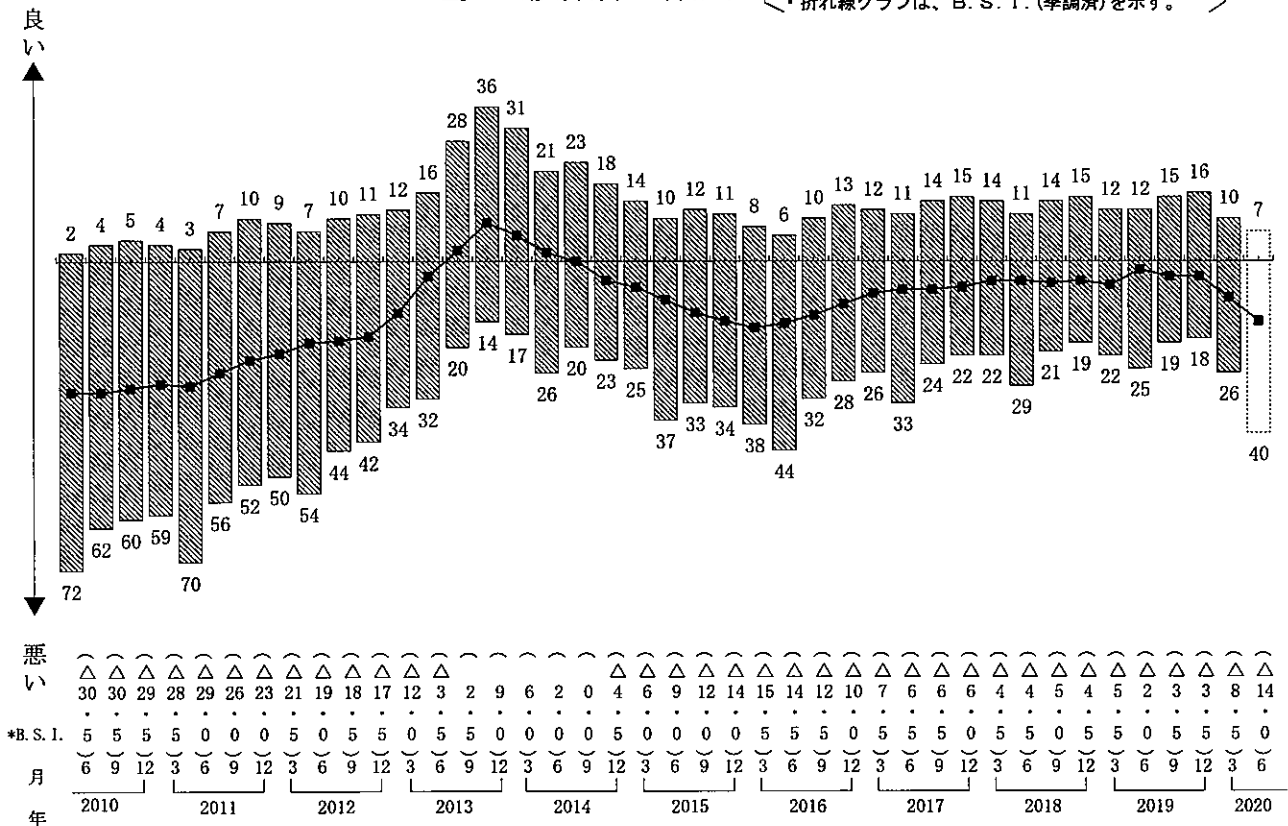
2. 主要項目別の動向

(1) 地元建設業界の景気

今 期	悪い傾向が強まっている。
	地元建設業界の景気は、「悪い」傾向が強まっている。 地区別、業種別、規模別で見ると、資本金別の個人を除くすべての区分で「悪い」傾向となっている。
来 期	悪い傾向が強まる見通し。
	地元建設業界の景気は、「悪い」傾向が強まる見通しとなっている。 地区別、業種別、規模別で見ると、資本金別の個人を除くすべての区分で「悪い」傾向の見通しとなっている。

地元建設業界の景気

・棒グラフは、回答企業の構成比(%)を示す。
・折れ線グラフは、B.S.I.(季調済)を示す。



2. 主要項目別の動向

(2) 受注

今 減少傾向が続いている。

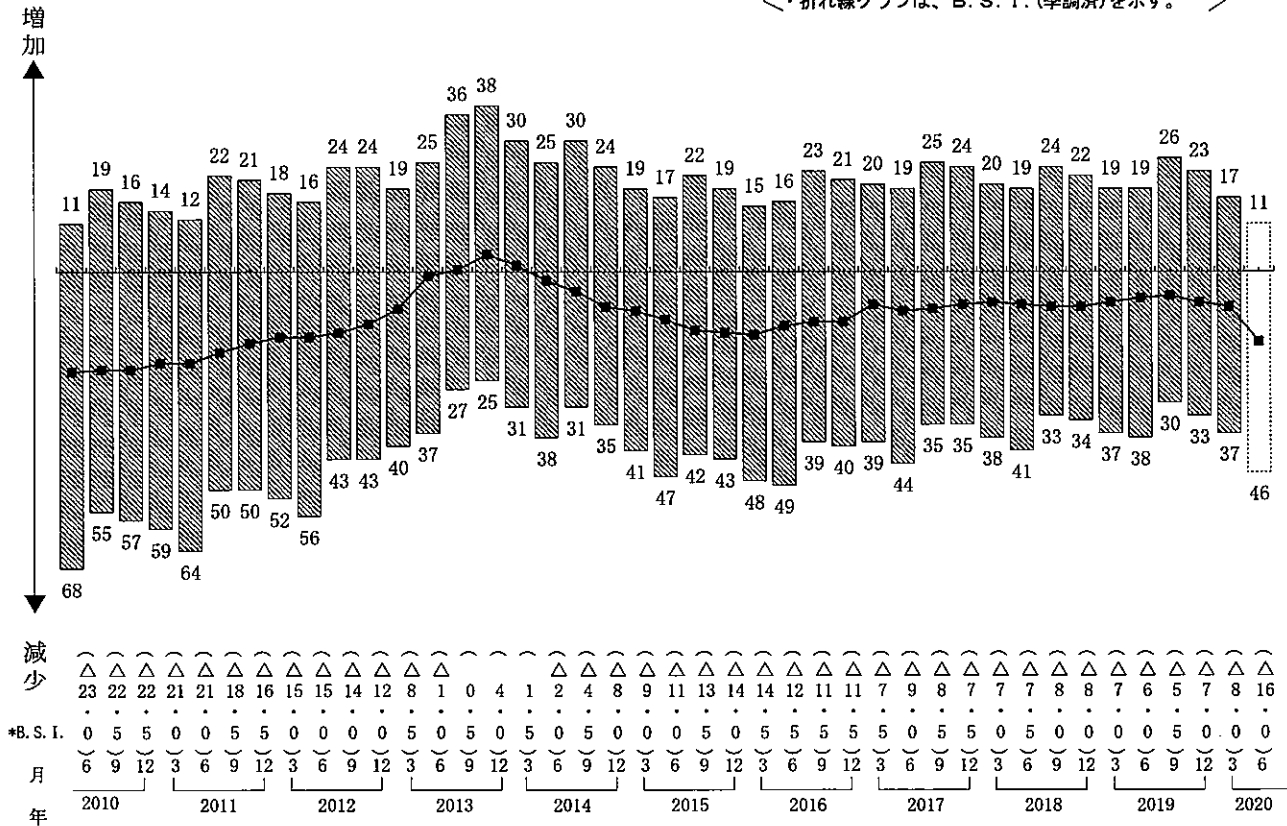
期 受注総額は、「減少」傾向が続いている。
官公庁工事、民間工事ともに「減少」傾向が続いている。

来 減少傾向が強まる見通し。

期 受注総額は、「減少」傾向が強まる見通しとなっている。
官公庁工事は「減少」傾向が強まり、民間工事は「減少」傾向がやや強まる見通しとなっている。

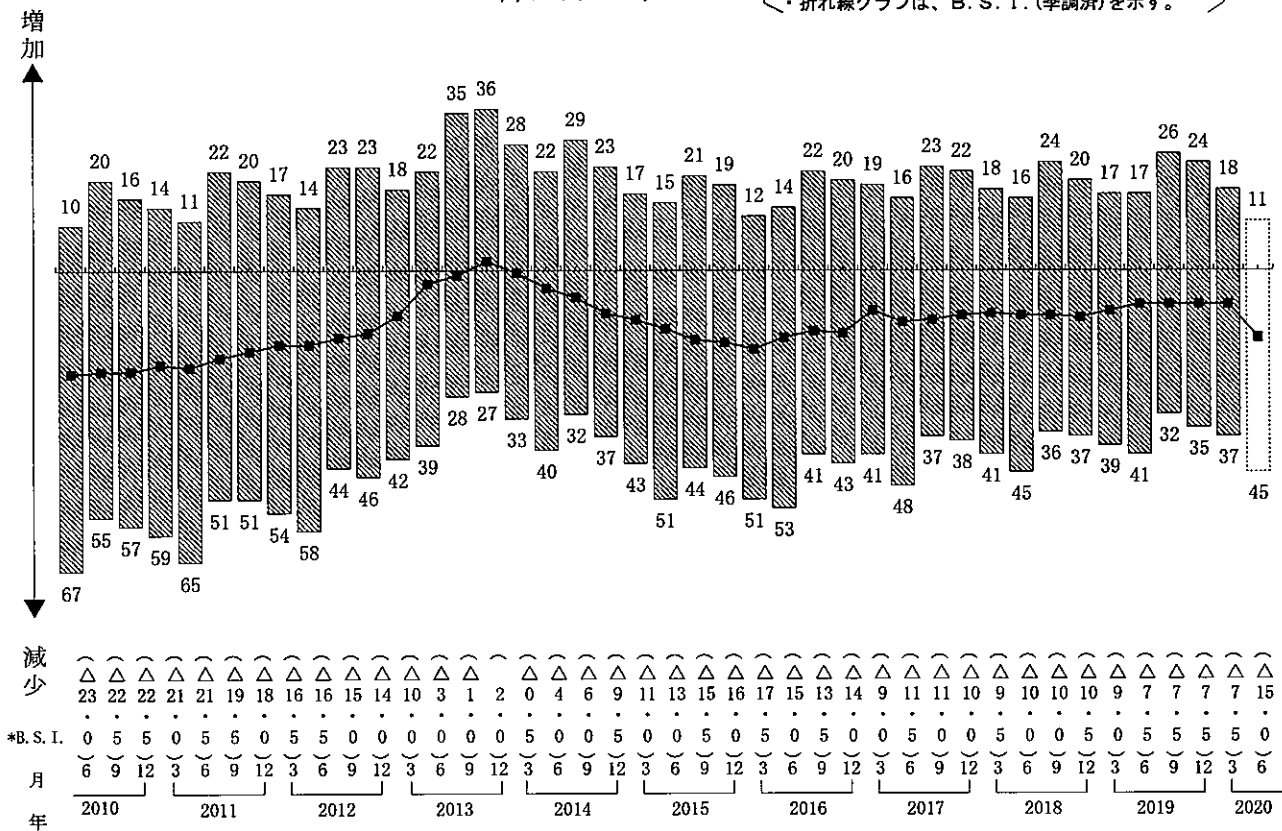
受注総額

・棒グラフは、回答企業の構成比(%)を示す。
・折れ線グラフは、B.S.I.(季調済)を示す。



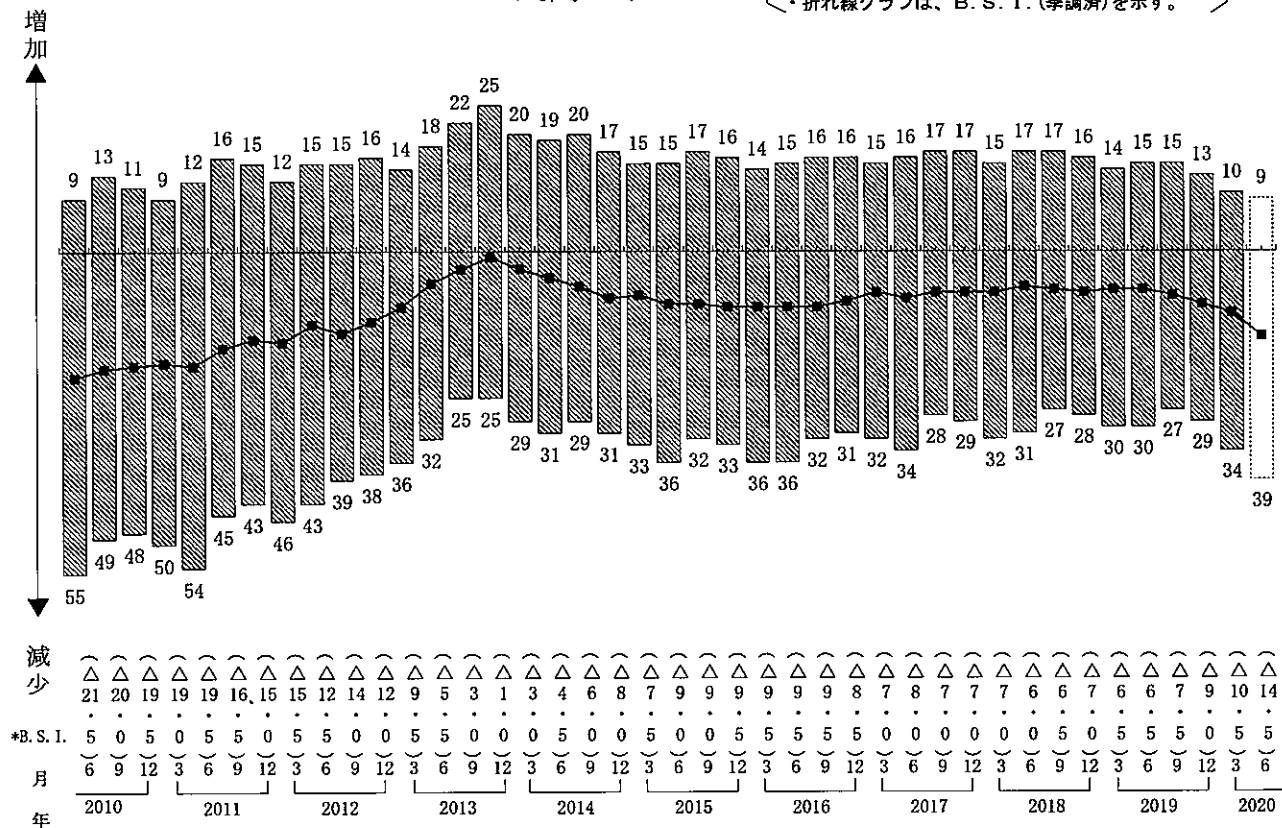
官公庁工事

・棒グラフは、回答企業の構成比(%)を示す。
・折れ線グラフは、B. S. I. (季調済)を示す。



民間工事

・棒グラフは、回答企業の構成比(%)を示す。
・折れ線グラフは、B. S. I. (季調済)を示す。



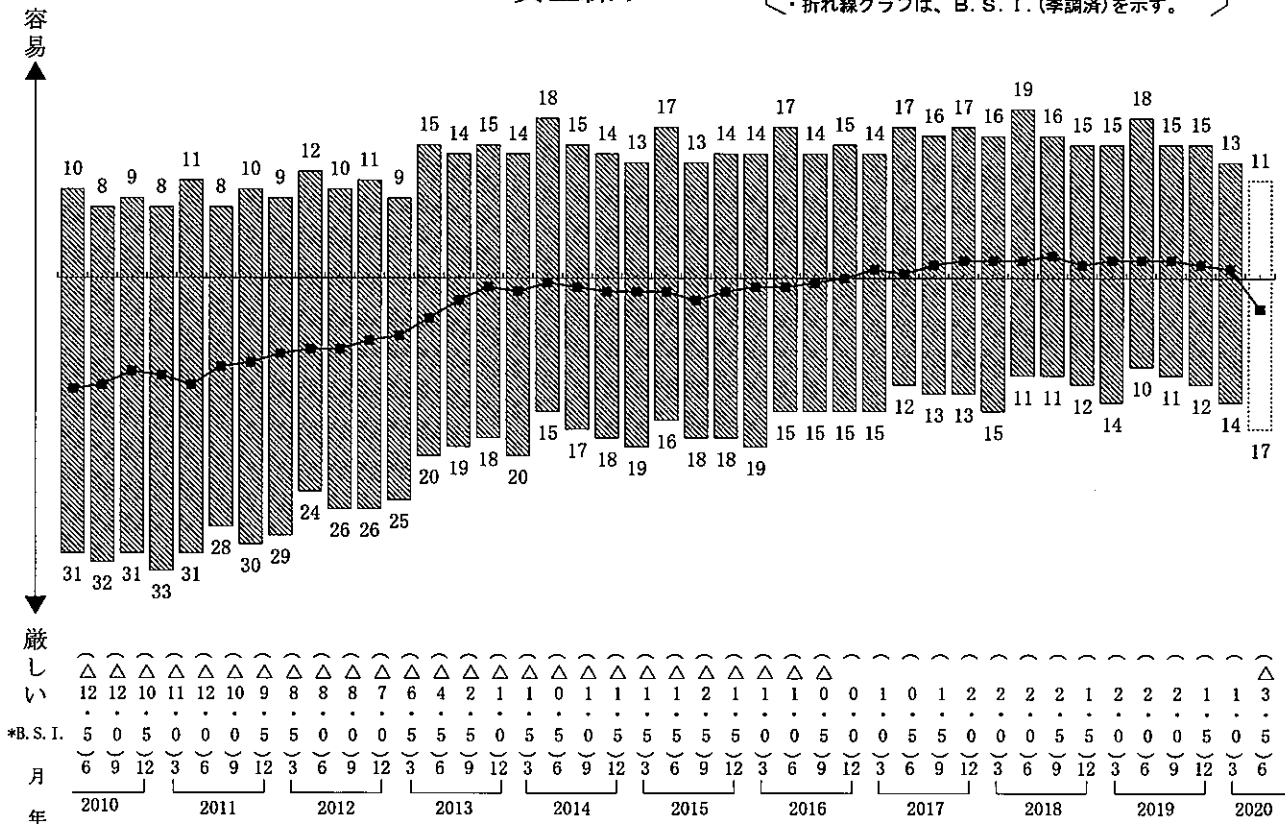
2. 主要項目別の動向

(3) 資金繰り

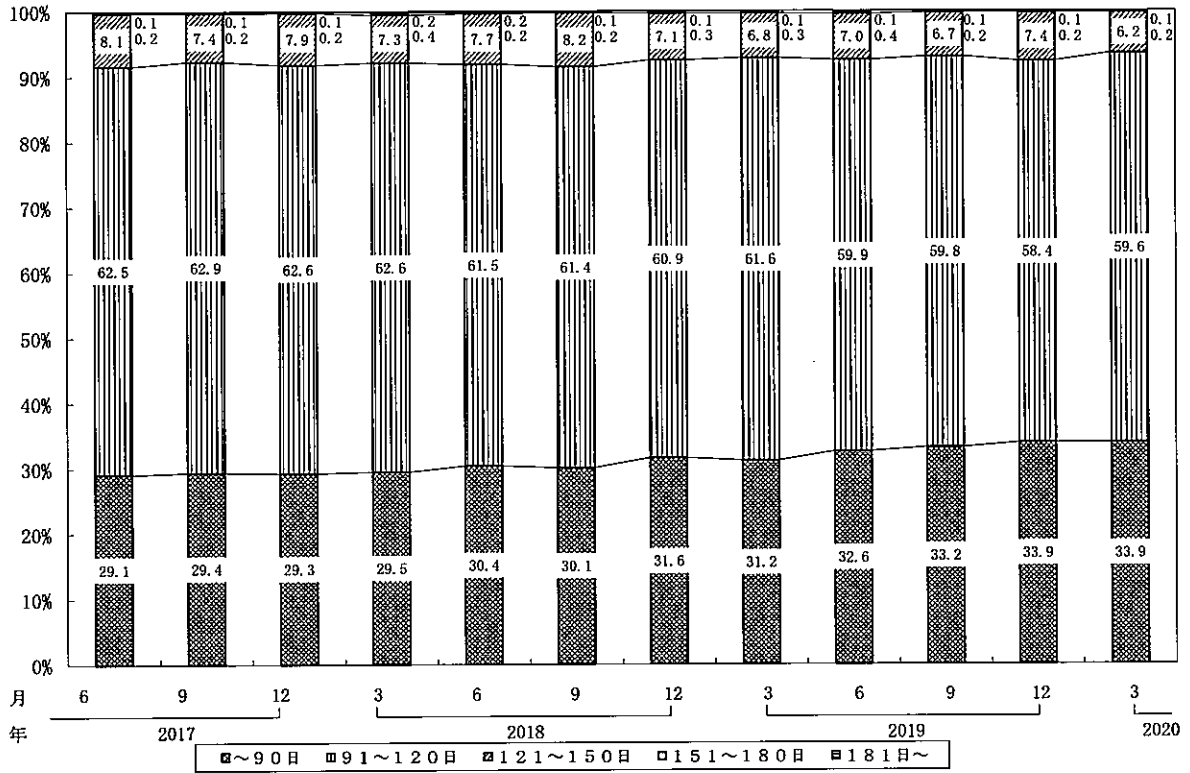
今 期	容易傾向が続いている。
	資金繰りは、「容易」傾向が続いている。 支払手形の平均サイトは、「91～120日」(59.6%)、「90日以内」(33.9%)の順となっている。 受取手形の平均サイトは、「91～120日」(65.3%)、「90日以内」(16.8%)の順となっている。
来 期	厳しい傾向に転じる見通し。
	資金繰りは、「厳しい」傾向に転じる見通しとなっている。 地区別でみると、北海道及び近畿を除くすべての地区で「厳しい」傾向の見通しとなっている。

資金繰り

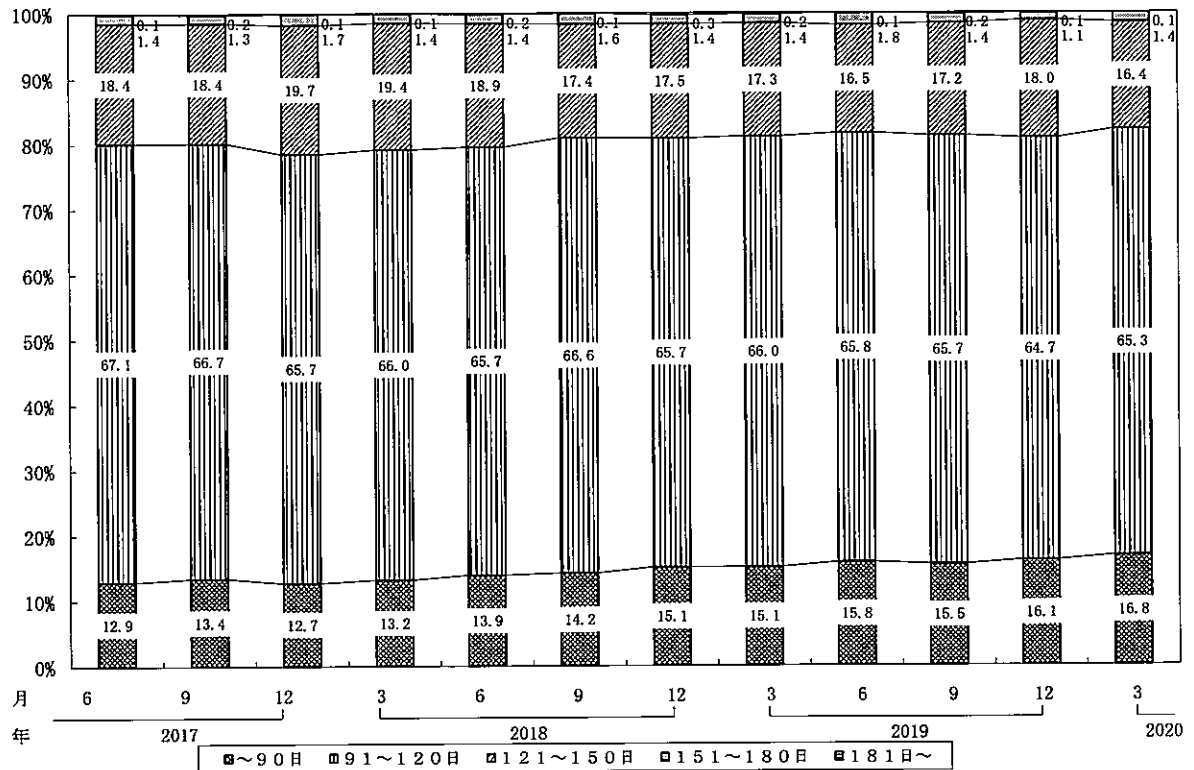
・棒グラフは、回答企業の構成比(%)を示す。
・折れ線グラフは、B.S.I.(季調済)を示す。



支払手形の平均サイト



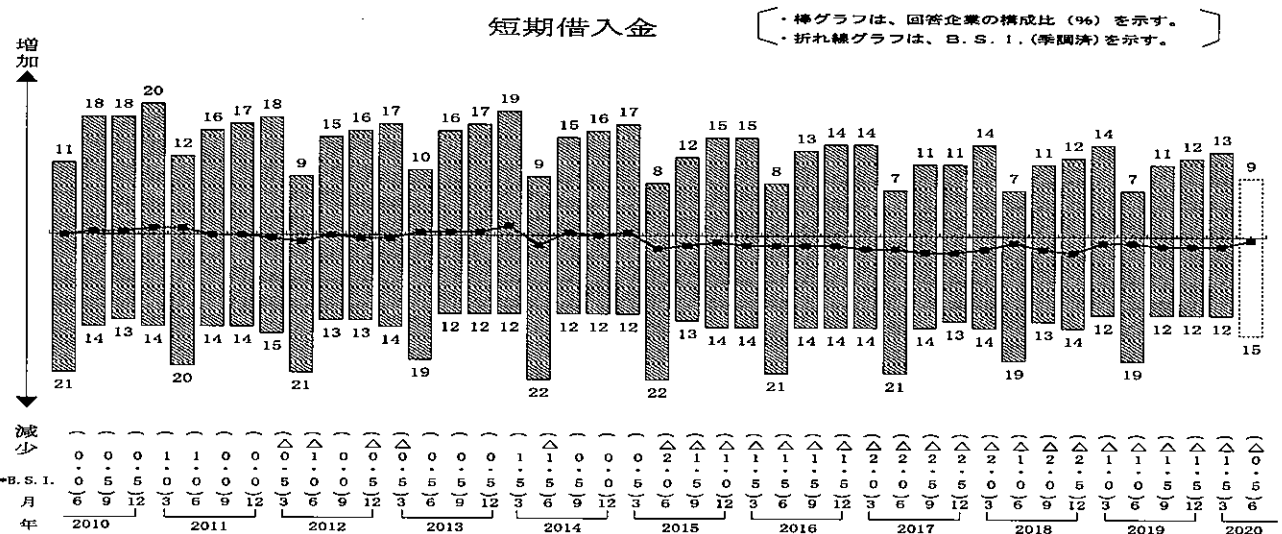
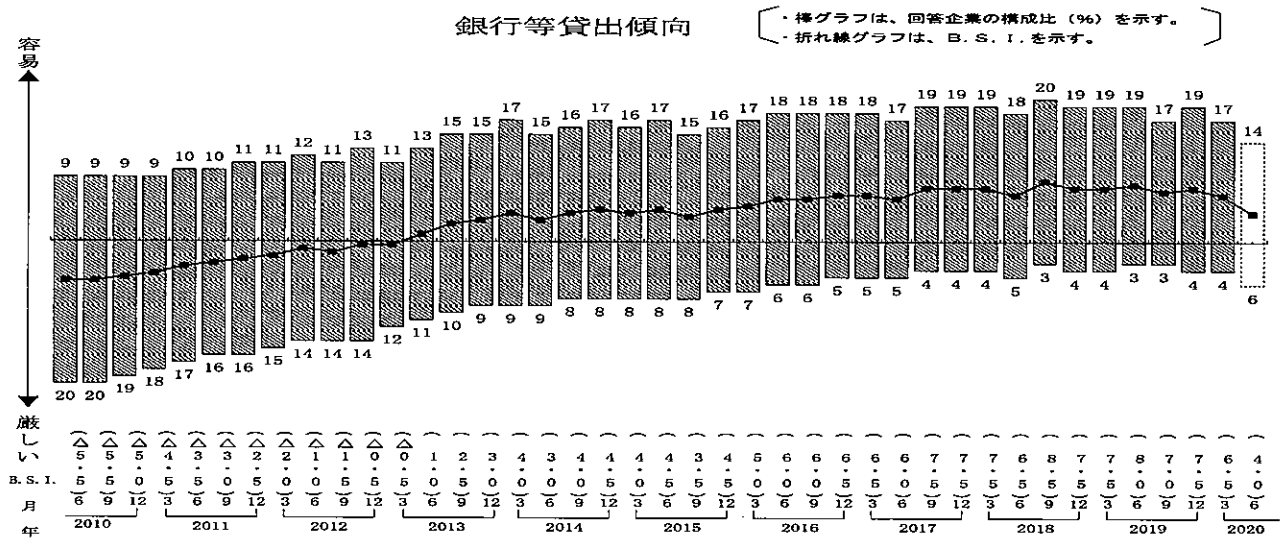
受取手形の平均サイト



2. 主要項目別の動向

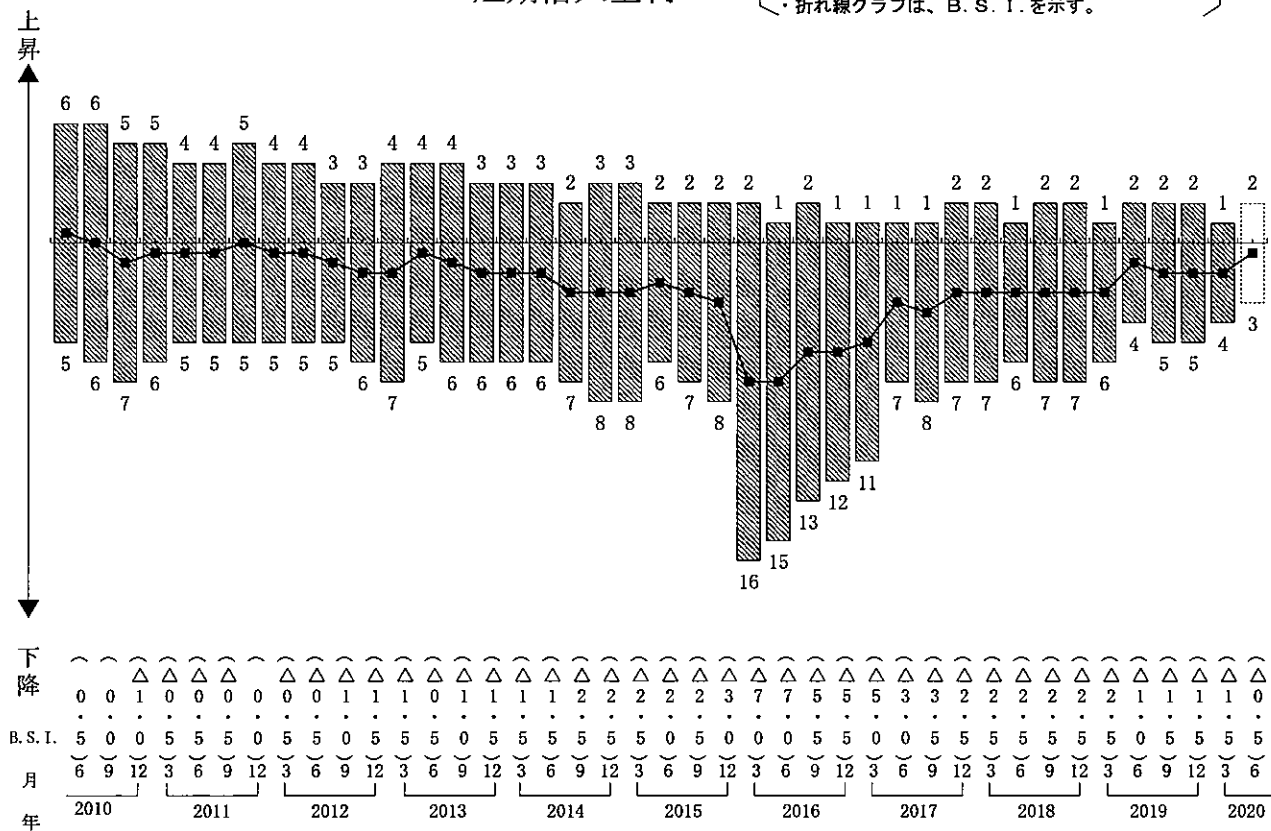
(4) 金融

今 期	銀行等貸出傾向は容易傾向が続いている。
	銀行等貸出傾向は、「容易」傾向が続いている。 短期借入金は、「減少」傾向が続いている。 短期借入金利は、「不変」とする企業が9割を超え、基調は変わらないものの、「下降」傾向が続いている。
来 期	銀行等貸出傾向は容易傾向がやや弱まる見通し。
	銀行等貸出傾向は、不変とする企業が8割を占め、基調は変わらないものの、「容易」傾向がやや弱まる見通しとなっている。 短期借入金は、「減少」傾向が続く見通しとなっている。 短期借入金利は、「不変」とする企業が9割を超え、基調は変わらないものの、「下降」傾向が続く見通しとなっている。

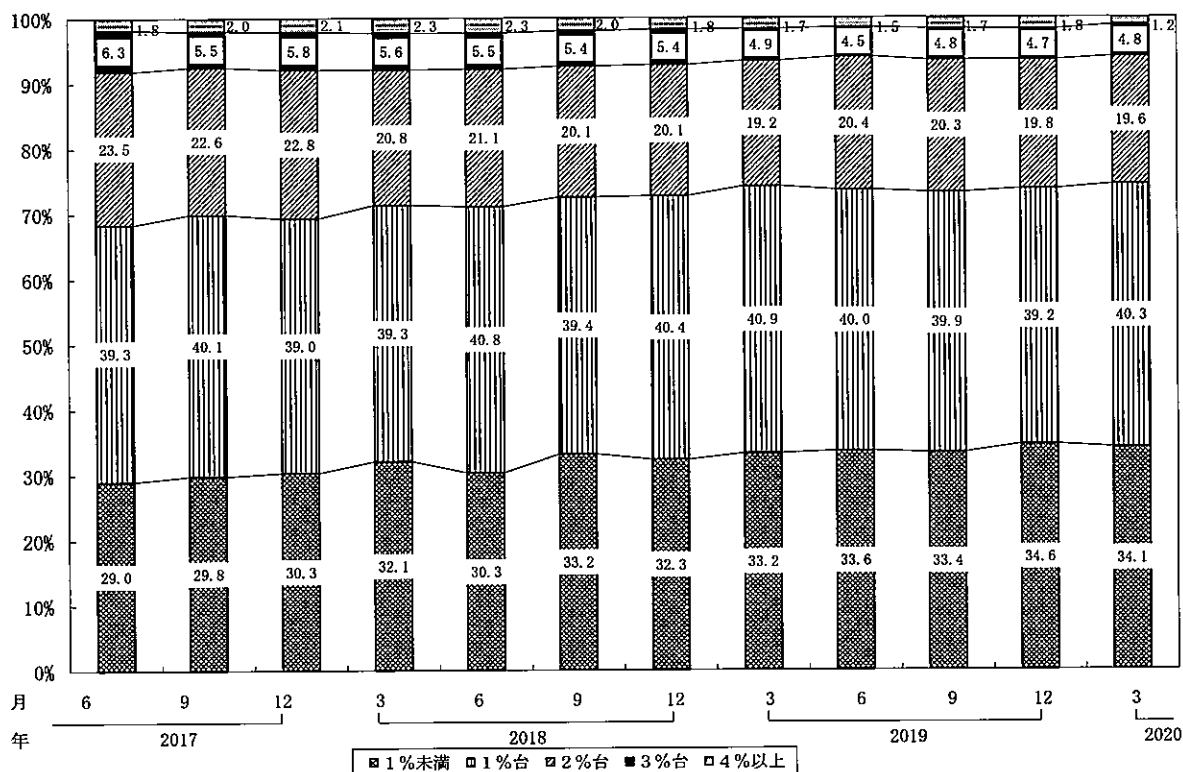


短期借入金利

・棒グラフは、回答企業の構成比 (%) を示す。
 ・折れ線グラフは、B. S. I. を示す。



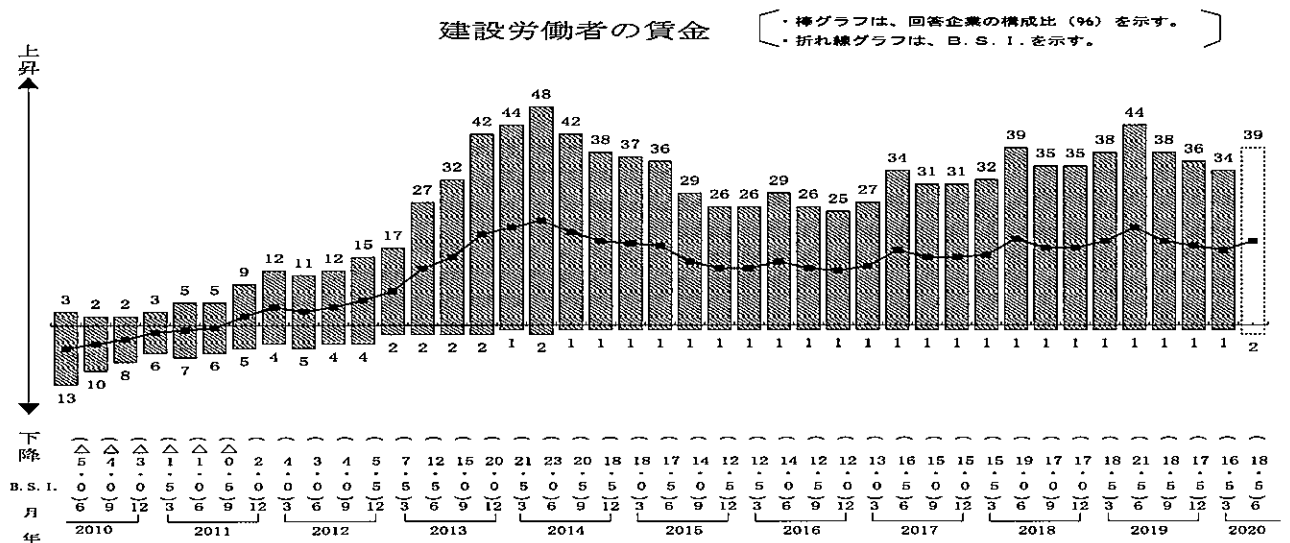
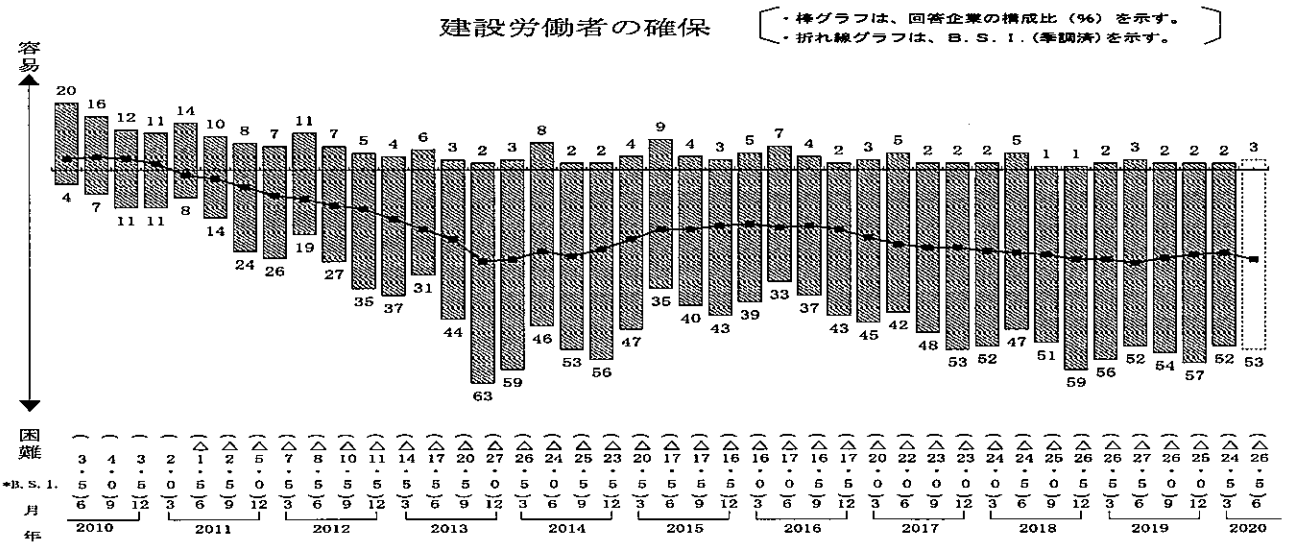
短期借入金利の状況



2. 主要項目別の動向

(6) 労務

今 期	建設労働者の賃金は上昇傾向が続いている。
	建設労働者の確保は、「困難」傾向が続いている。 建設労働者の賃金は、「上昇」傾向が続いている。
来 期	建設労働者の賃金は上昇傾向が続く見通し。
	建設労働者の確保は、「困難」傾向が続く見通しとなっている。 建設労働者の賃金は、「上昇」傾向が続く見通しとなっている。



2. 主要項目別の動向

(7) 収益

今
期

減少傾向が続いている。

収益は、「減少」傾向が続いている。

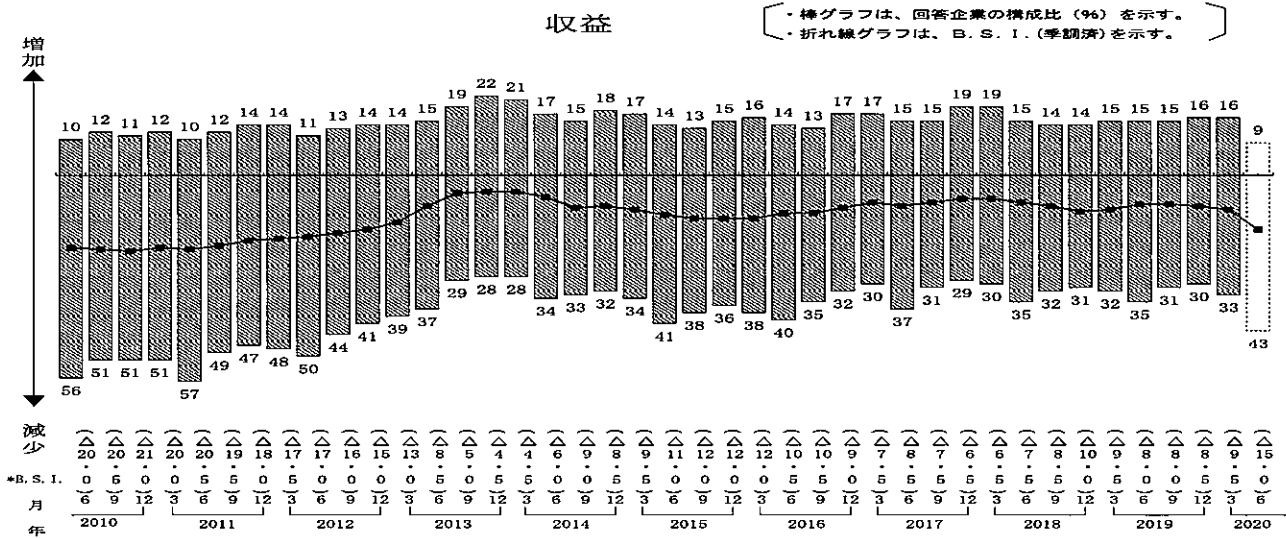
収益の「減少」理由をみると、「完成工事高の減少」(81.7%)が最も多く、「競争激化」(32.4%)、「人件費の上昇」(30.1%)の順となっている。

来
期

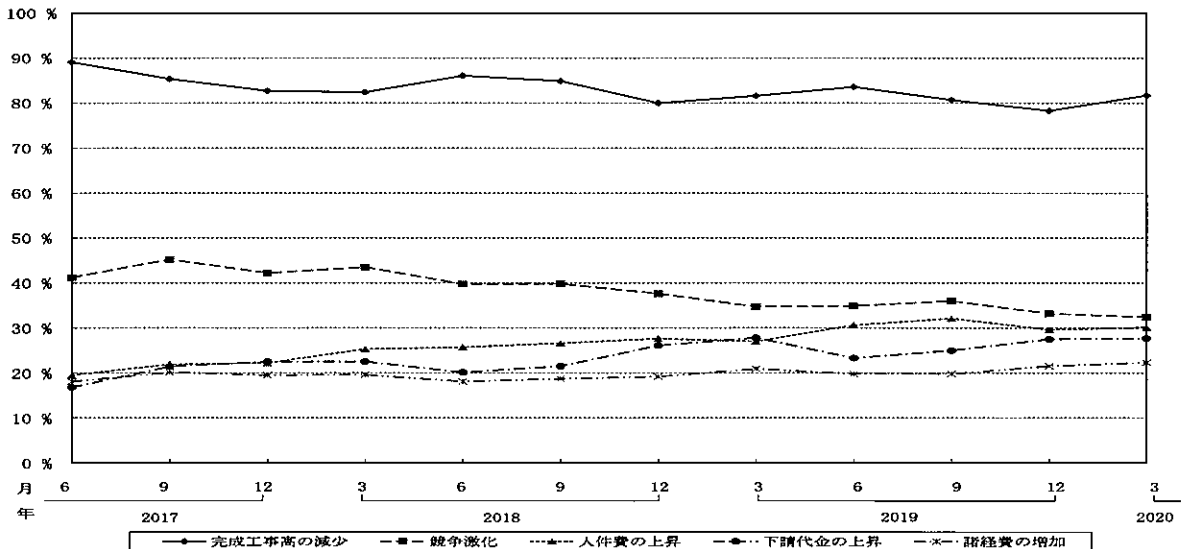
減少傾向が強まる見通し。

収益は、「減少」傾向が強まる見通しとなっている。

地区別、業種別、規模別でみると、すべての区分で「減少」傾向の見通しとなっている。



収益増加・減少の理由(減少)



2. 主要項目別の動向

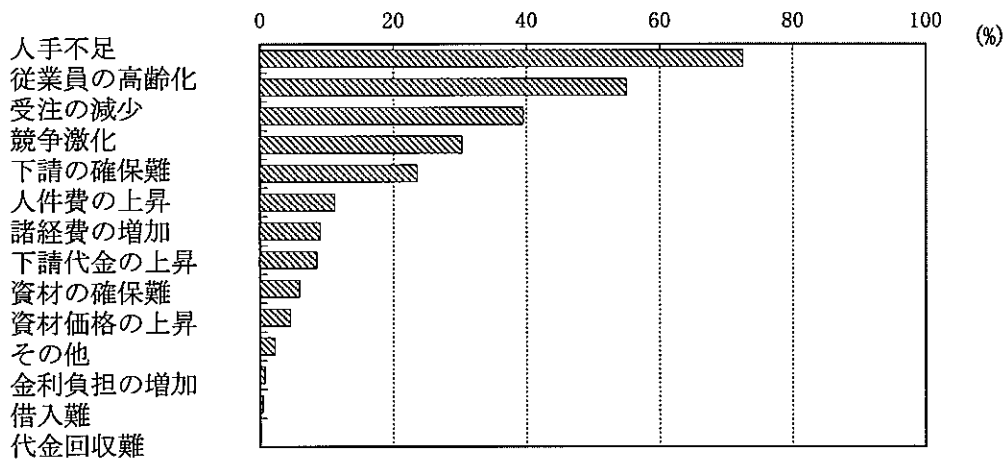
(8) 経営上の問題点

今
期

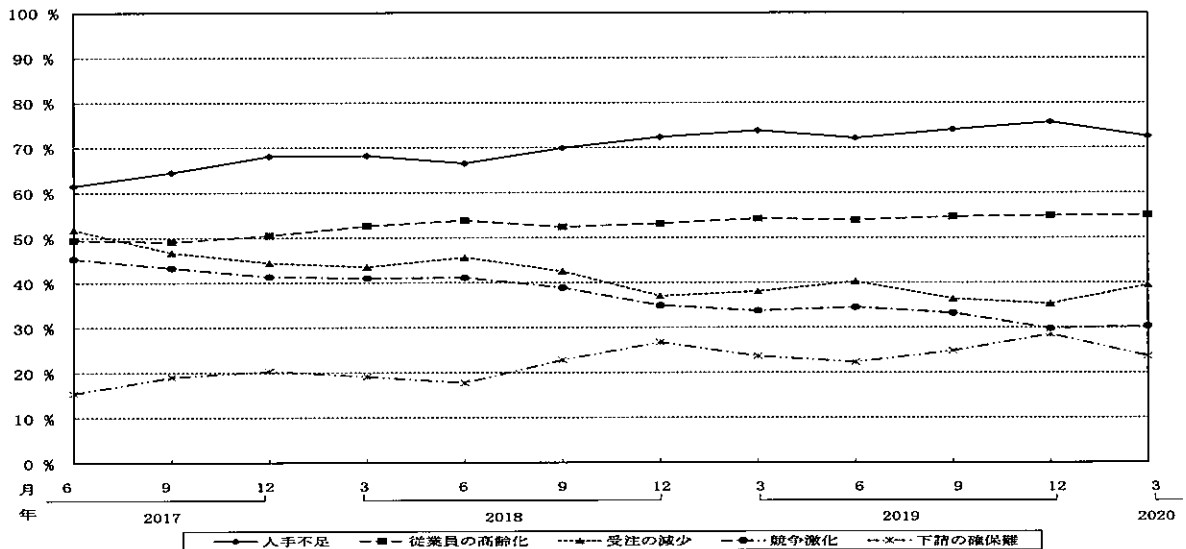
1位は人手不足。

現在、建設企業が直面している経営上の問題点は、「人手不足」(72.5%)が最も多く、「従業員の高齢化」(55.0%)、「受注の減少」(39.5%)の順となっている。

今期の経営上の問題点



経営上の問題点



＜今期の動向－1＞ 全国

業況等	良い 悪い BSI	増加 減少 BSI	増加 減少 BSI	増加 減少 BSI	増加 減少 BSI	増加 減少 BSI	地区別										業種別				完工高別				資金別			
							北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	土木	建築・建設	設備	3億 円未満	10億 円未満	30億 円未満	30億 円以上	個人	1千万 円未満	5千万 円未満	1億 円未満	1億 円以上	
自社の業況	15.0	12.0	17.0	9.0	15.0	19.0	15.0	16.0	17.0	17.0	16.0	14.0	17.0	14.0	17.0	14.0	14.0	15.0	16.0	14.0	40.0	7.0	16.0	13.0	11.0			
* 地元建設業界の景況	26.0	29.0	26.0	27.0	26.0	18.0	22.0	22.0	23.0	23.0	25.0	25.0	23.0	26.0	25.0	28.0	25.0	32.0	27.0	22.0	60.0	30.0	28.0	22.0	18.0			
* 官公庁工事	10.0	8.0	13.0	5.0	10.0	16.0	11.0	12.0	11.0	11.0	10.0	10.0	11.0	10.0	10.0	6.0	10.0	8.0	12.0	10.0	40.0	4.0	12.0	7.0	6.0			
* 民間工事	26.0	26.0	27.0	33.0	24.0	19.0	22.0	21.0	23.0	23.0	19.0	21.0	21.0	26.0	27.0	33.0	27.0	33.0	21.0	24.0	40.0	42.0	28.0	24.0	22.0			
* 受注総額	18.0	17.0	21.0	14.0	16.0	20.0	17.0	22.0	18.0	18.0	20.0	19.0	19.0	13.0	18.0	13.0	18.0	13.0	20.0	18.0	40.0	4.0	19.0	14.0	19.0			
* 受注総額	37.0	34.0	35.0	37.0	28.0	25.0	30.0	30.0	33.0	33.0	32.0	34.0	34.0	37.0	37.0	34.0	40.0	40.0	33.0	29.0	60.0	50.0	35.0	31.0	29.0			
* 資金繰り	17.0	17.0	14.0	16.0	17.0	24.0	17.0	14.0	16.0	17.0	14.0	16.0	17.0	14.0	16.0	17.0	14.0	16.0	17.0	16.0	20.0	9.0	17.0	16.0	18.0			
* 銀行等貸出傾向	6.5	7.5	4.5	7.0	7.5	10.0	7.0	5.5	6.5	6.5	6.5	6.5	5.5	5.5	5.5	7.5	7.5	7.0	7.0	9.5	10.0	0.0	6.5	7.0	9.0			
* 短期借入金	13.0	14.0	11.0	14.0	16.0	13.0	12.0	13.0	13.0	15.0	10.0	10.0	12.0	12.0	12.0	10.0	10.0	13.0	13.0	15.0	20.0	15.0	13.0	13.0	11.0			
* 短期借入金	12.0	13.0	9.0	7.0	9.0	17.0	12.0	12.0	19.0	13.0	10.0	14.0	17.0	12.0	11.0	11.0	16.0	11.0	11.0	9.0	20.0	23.0	16.0	10.0	13.0			
短期借入金	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	1.0	1.0	20.0	9.0	17.0	16.0	18.0			
短期借入金	4.0	3.0	4.0	2.0	2.0	8.0	7.0	3.0	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	4.0	3.0	11.0	9.0	4.0	5.0	3.0			
* 資材の調達	4.0	4.0	3.0	4.0	5.0	5.0	4.0	3.0	3.0	3.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	60.0	20.0	19.0	21.0	22.0			
* 資材価格	29.0	25.0	30.0	25.0	33.0	29.0	35.0	32.0	29.0	29.0	29.0	29.0	28.0	28.0	20.0	28.0	29.0	18.0	21.0	20.0	60.0	20.0	19.0	21.0	22.0			
* 建設労働者の確保	16.0	16.0	13.0	15.0	18.0	17.0	17.0	17.0	16.5	16.5	17.0	17.0	16.0	16.0	15.5	14.5	15.5	14.5	13.5	14.5	20.0	21.5	14.5	12.0	13.5			
* 建設労働者の賃金	52.0	40.0	45.0	54.0	54.0	54.0	50.0	51.0	63.0	63.0	68.0	68.0	60.0	51.0	51.0	57.0	52.0	52.0	44.0	46.0	50.0	58.0	54.0	46.0	48.0			
* 収益	34.0	33.0	24.0	35.0	37.0	36.0	35.0	34.0	44.0	44.0	39.0	32.0	29.0	29.0	32.0	31.0	30.0	34.0	36.0	34.0	20.0	20.0	35.0	30.0	39.0			
* 収益	16.5	16.0	11.5	18.0	18.0	17.0	17.0	16.5	21.5	21.5	19.0	14.0	13.5	15.0	14.0	15.5	14.0	14.0	17.5	16.5	10.0	10.0	17.0	14.5	18.5			
* 収益	16.0	16.0	13.0	15.0	20.0	20.0	17.0	20.0	16.0	16.0	13.0	15.0	16.0	13.0	13.0	15.0	19.0	18.0	18.0	16.0	60.0	15.0	16.0	16.0	17.0			
* 収益	33.0	34.0	42.0	33.0	33.0	22.0	31.0	28.0	32.0	32.0	33.0	33.0	38.0	38.0	29.0	40.0	40.0	34.0	34.0	30.0	20.0	27.0	35.0	29.0	28.0			
* 収益	16.0	16.0	14.0	18.0	18.0	17.0	17.0	16.5	21.5	21.5	19.0	14.0	13.5	15.0	14.0	15.5	14.0	14.0	17.5	16.5	10.0	10.0	17.0	14.5	18.5			

(*)のBSIは季節調整データ

2019年度第1回 建設業景況調査票 <貴社様>
(2020年1~3月期)

貴社
ご担当者名

<記入上のお願ひ>ご回答は、回答欄に番号でご記入ください。(番号以外のもの(斜線など)は、ご記入なさらないようお願いいたします。)
あてはまらない項目や、不明な項目は空白で結構です。(※本アンケート調査は、建設業景況調査結果のみ使用し、他の目的には一切使用いたしません。)

I 現況と見通しについておたずねします。[現況(1~3月)・見通し(4~6月)]

1. 業況等について	前期(06.10~12)に比べて	見通しは	今期(20.1~3)に比べて
① 貴社の業況	(1. 悪い 2. やや悪い 3. 変らず 4. やや悪い 5. 悪い)	<input type="text"/>	<input type="text"/>
② 地元建設業界の景況	(1. 悪い 2. やや悪い 3. 変らず 4. やや悪い 5. 悪い)	<input type="text"/>	<input type="text"/>

2. 工事受注について

③ 官公庁工事受注額	(1. 増加 2. やや増加 3. 変らず 4. やや減少 5. 減少)	前期に比べて	見通しは
④ 民間工事受注額	(1. 増加 2. やや増加 3. 変らず 4. やや減少 5. 減少)	<input type="text"/>	<input type="text"/>
⑤ 受注総額(③+④)	(1. 増加 2. やや増加 3. 変らず 4. やや減少 5. 減少)	<input type="text"/>	<input type="text"/>

3. 金融・資金繰りについて

⑥ 資金繰り	(1. 容易 2. やや容易 3. 変らず 4. やや厳しい 5. 厳しい)	前期に比べて	見通しは
⑦ 銀行等の貸出傾向	(1. 容易 2. やや容易 3. 変らず 4. やや厳しい 5. 厳しい)	<input type="text"/>	<input type="text"/>
⑧ 短期借入金	(1. 増加 2. やや増加 3. 変らず 4. やや減少 5. 減少)	<input type="text"/>	<input type="text"/>
⑨ 短期借入金金利	(1. 上昇 2. やや上昇 3. 変らず 4. やや下降 5. 下降)	<input type="text"/>	<input type="text"/>
⑩ 実際の短期借入金金利(1~3月に主力金融機関から運転資金として新規に借入れた金利)	(1. 「1%未満」 2. 「1%台」 3. 「2%台」 4. 「3%台」 5. 「4%台」 6. 「5%台」 7. 「6%台」 8. 「7%台」 9. 「8%以上」)	現況は	<input type="text"/>
⑪ 支払手形の平均サイト(1~90日 2. 91~120日 3. 121~150日 4. 151~180日 5. 181日~)		<input type="text"/>	<input type="text"/>
⑫ 受取手形の平均サイト(1~90日 2. 91~120日 3. 121~150日 4. 151~180日 5. 181日~)		<input type="text"/>	<input type="text"/>

4. 資材の動向について

⑬ 資材の調達	(1. 容易 2. やや容易 3. 変らず 4. やや困難 5. 困難)	前期に比べて	見通しは
⑭ 資材価格	(1. 上昇 2. やや上昇 3. 変らず 4. やや下降 5. 下降)	<input type="text"/>	<input type="text"/>

⑮ 資材の調達・価格について、下記項目に該当するものがあれば各々3つ以内選んでください。

11. 生コン・セメント	12. 砂利・碎石・砂	困難なもの	<input type="text"/>
13. コンクリート二次製品	14. 鉄鋼	容易なもの	<input type="text"/>
16. 鋼矢板・鋼管	15. 形鋼・厚板	上昇したもの	<input type="text"/>
19. アスファルト合材	17. 木材	下降したもの	<input type="text"/>
22. その他()	18. 合板		<input type="text"/>
	20. 塩ビ管		<input type="text"/>
	21. 電材		<input type="text"/>
	22. その他()		<input type="text"/>

5. 労務の動向について

⑯ 建設労働者の確保	(1. 容易 2. やや容易 3. 変らず 4. やや困難 5. 困難)	前期に比べて	見通しは
⑰ 建設労働者の賃金	(1. 上昇 2. やや上昇 3. 変らず 4. やや下降 5. 下降)	<input type="text"/>	<input type="text"/>

⑱ 建設労働者の確保・賃金について、下記項目に該当するものがあれば各々3つ以内選んでください。

11. 軽作業員	12. 普通作業員	13. 特殊作業員	確保が	困難な職種	<input type="text"/>
14. 石工・ブロック工	15. とび工	16. 鉄筋工	容易な職種	容易な職種	<input type="text"/>
17. 一般運転手	18. 特殊運転手	19. 型枠工	上昇した職種	上昇した職種	<input type="text"/>
20. 大工	21. 左官	22. 電工	賃金が	下降した職種	<input type="text"/>
23. 配管工	24. その他()				<input type="text"/>

6. 収益について

⑲ 収益	(1. 増加 2. やや増加 3. 変らず 4. やや減少 5. 減少)	前期に比べて	見通しは
------	--------------------------------------	--------	------

上記⑲(現況)で「1. 増加」「2. やや増加」とお答えになった主な理由を3つ以内選んでください。

11. 完成工事高の増加	12. 発注単価の上昇	増加理由は	<input type="text"/>
13. 下請代金の低下	14. 資材価格の低下	減少理由は	<input type="text"/>
15. 金利負担の減少	16. 諸経費の減少		<input type="text"/>
17. 施工の合理化	18. 天候条件(良)		<input type="text"/>
19. 技術革新(機械化・ロボット化・新工法の導入等)	20. その他()		<input type="text"/>

上記⑲(現況)で「1. 増加」「2. やや増加」とお答えになった主な理由を3つ以内選んでください。

11. 完成工事高の減少	12. 発注単価の低下	減少理由は	<input type="text"/>
13. 人件費の上昇	14. 下請代金の上昇		<input type="text"/>
15. 資材価格の上昇	16. 金利負担の増加		<input type="text"/>
17. 諸経費の増加	18. 競争激化		<input type="text"/>
19. 天候条件(不良)	20. その他()		<input type="text"/>

II 現在直面している経営上の問題を上位から3つ以内選んでください。

11. 受注の減少	12. 競争激化	13. 人手不足(技能・技術者含む)	14. 従業員の高齢化
15. 人件費の上昇	16. 下請の確保難	17. 下請代金(外注費)の上昇	18. 資材の確保難
19. 資材価格の上昇	20. 諸経費の増加	21. 借入難	22. 金利負担の増加
23. 代金回収難	24. その他()		

問題点

北海道建設業信用保証株式会社
東日本建設業保証株式会社
西日本建設業保証株式会社

ご協力ありがとうございます。後日ご報告させていただきます。
本調査結果につきましては、後日ご報告させていただきます。

建設業景況調査

2019年度第4回(通算第156回)

発行：北海道建設業信用保証株式会社

札幌市中央区北4条西3-1
〒060-0004 TEL 011(221)2092代

東日本建設業保証株式会社

東京都中央区八丁堀2-27-10
〒104-8438 TEL 03(3552)7528代

西日本建設業保証株式会社

大阪市西区立売堀2-1-2
〒550-0012 TEL 06(6543)2556代